

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「イスラームに基づく経済活動・行為」

（平成 25 年度第 2 回研究会）

日時：平成 25 年 11 月 30 日（土曜日）午後 2 時より午後 6 時

場所：AA 研マルチメディア会議室（304）

プログラム

【非公開】

- ・ 14 : 00～14 : 10 趣旨説明
- ・ 14 : 10～15 : 15 自己紹介・研究紹介
- ・ 15 : 15～15 : 45 今後の運営方法について

【一般公開】

- ・ 16 : 00～16 : 10 趣旨説明
- ・ 16 : 10～17 : 10 報告： 安田慎（研究協力者、帝京大学経済学部）
「市場と贈与の狭間－イスラームにおける巡礼・参詣経済」
- ・ 17 : 10～18 : 00 ディスカッション

市場と贈与の狭間

－イスラームにおける巡礼・参詣経済－

安田 慎

本発表は、シリア・シーア派参詣に深く関与している旅行会社に焦点を当て、これらの旅行会社が造成する宗教サービスを中心に、宗教観光産業の市場と贈与との関連から分析するものであった。

従来から贈与活動（サダカ）は参詣における重要な宗教実践であったが、シリア・シーア派参詣においては、宗教観光産業の推進にともなって飛躍的に発展してきたことを指摘した。特に、1990 年代以降に急速に広まった巡礼・参詣を専門とする「イスラーム旅行会社」と呼べる一連の旅行会社が重要な役割を果たしている点を示した。これらの旅行会

社では、そのツアーや経営活動における宗教的な正統性を示すために、宗教サービスを積極的に推進してきたことを指摘した。そのなかでも、贈与活動（サダカ）を宗教サービスの主要な実践のひとつとして推進してきたことを示した。それらの宗教サービスとしての贈与活動を推進する環境を整備するために、関係者が積極的に設備の整備や人材の育成に尽力してきた点を指摘した。これらの経済活動のなかでの関係者による宗教サービスの推進が、参詣活動における贈与活動の発展に繋がってきたと結論づけた。

発表に続く質疑応答では、宗教サービスを贈与（サダカ）と関連させることの妥当性について多くの議論が展開された。特に、現場レベルにおける宗教サービス実践の個々の名称・実態が、必ずしも全てサダカに結びついているのかについては、調査による詳細な分類が必要であるとの指摘がなされた。

さらに、所謂「経済活動」と「宗教活動」を区分する分類の仕方が、イスラームにおいては必ずしも自明ではないとの指摘が出された。両者の関係についても、実態のレベルでいかに認識されているのかを踏まえたうえで議論を展開することが、より有用な議論に繋がる点が、出席者による合意となった。